

一刀領談

本紙客員論説委員 下條正男



しもじょう・まさお 長野県出身。国学院大学院博士課程修了後、韓国・仁川大学校客員教授などを経て、1999年から拓殖大教授を務めた。今年3月末で退官し、現在は島根県立大と東海海洋研究所の客員教授を務める。70歳。

近年の日韓関係は最悪の状況にある。その中で韓国は中国に接近し、中国もまた韓国に秋波を送っている。この現象は危険である。日本列島と中国大陸に挟まれた朝鮮半島は、中国大陸の国家が台頭すると、いち早く外交方針を変えて混乱の元凶となるからだ。

その典型が、鎌倉時代に蒙古(モンゴル)軍が九州北部を攻撃した元寇である。元寇は、一般的に元が主導した日本侵攻と見る向きもあるが、その原因を作ったのは朝鮮半島の高麗だったからだ。高麗は元が強大になると世子(後の忠烈王)を元に送り、その忠烈王がフビライに提案したのが元寇である。そこで高麗は元に戦艦の建造を命じられ、文永の役の主戦力となった。

今日、韓国の歴史ではその元寇は「日本征伐」として教えることがある。韓国では豊臣秀吉による「朝鮮征伐」に反発しながら、自らは「東征」と呼び、元寇の元凶という不都合な事実を隠蔽するのである。

最近の韓国政府の中国接近は、過去の歴史を踏まえて考え方がよい。朝鮮半島の去就は、東アジアの国際情勢に大きな影響を与えてきたからだ。

1860年以来、ロシアの南下政策が露骨になり、清朝(中国)が衰退し始めると、朝鮮の中に「日本派」が誕生したのは、時流に即した独自の外交センスである。

最近の日韓関係



韓国が不法占拠する竹島

する「歴史認識」には、必ず欠陥があるからだ。韓国は1992年以来、日本海の呼称を問題にしてきた。独島が日本海の中にあると日本の領海の中にあるよう不適切だとし、2千年前から使ってきた東海に改めるべきだというのが、ところが、その東海は、戦前までは朝鮮半島の沿海部の呼称で、東海が日本海と重なるのは20世紀半ば以降である。韓国では虚偽の歴史を捏造し、反日感情を一方的に募らせては国際社会を混乱させてきた。

歴史認識の誤りただせ

頭し、尖閣諸島や台湾に対する中国の姿勢は座視できない状況にある。この時、日本が韓国との歴史問題を解決できなければ韓国は日本を敬遠し、中国側に追従する。

それも韓国側が日本を侵略国家とする「歴史認識」は、1954年、韓国政府

が竹島(韓国名・独島)を

武力占拠して、それを正当

化するために醸成した外交

カードである。そのため島

根県議会が2005年3

月、「竹島の日に関する条

例」を制定して領土権の確

立を求めると、韓国側は必

ず死に抵抗したのである。

竹島を不法占拠し、その領有権を主張する日本を非難している限り、韓国側には東アジア情勢の深刻さが分らない。東アジアに安寧をもたらすには、中国と直接対立する前に韓国の妄動を封印することも戦略の一つである。

だが、現状では、竹島を

侵奪した韓国側が逆に日本

を侵略国家とし、「慰安婦

問題」や「徴用工問題」を

駆使して、日本批判を続け

ている。この状況を放置し

てきた日本政府の責任は重

い。なぜなら韓国側が主張

し、朝鮮半島の歴史認識の誤りをただすことだ。愚かではない韓国国民も、竹島問題の真実を知れば現実の東アジア情勢に気が付き、日韓の間に中国が容喙する隙を与えずにすむからだ。

島根県の竹島問題研究会

の座長を務めた竹島研究の

第一人者で、本紙客員論説

委員に就任した下條正男氏

に、日本と韓国、ロシアな

どを巡る領土問題を中心に

鋭く斬つてもらう。タイト

ルは「一刀両断ならぬ」「一刀領談」。随時掲載。

随時掲載